

各 位

会 社 名 イーシステム株式会社
 代表者名 代表取締役社長 大森良哉
 (コード 4322、大証ヘラクレス)
 問合せ先 経理室 室長 神戸義裕
 (T E L 03-6811-0003)

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 1 月 26 日に発表した通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

平成 21 年 12 月期決算 連結業績予想数値 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,235	30	10	5	11.13
今回修正予想 (B)	4,067	△524	△659	△758	△1,689.61
増減額 (B - A)	△167	△554	△669	△763	
増減率 (%)	△3.9	—	—	—	
前期実績 (平成 20 年 12 月期決算)	5,894	2	△49	△596	△1,327.69

2. 個別業績見込と前期実績 (個別) との差異

平成 21 年 12 月期決算 個別業績見込 (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (平成 20 年 12 月期) (A)	2,358	96	68	△589	△1,311.99
当期見込 (平成 21 年 12 月期) (B)	1,387	△269	△685	△932	△2,077.82
増減額 (B - A)	△971	△365	△753	△343	
増減率 (%)	△41.1	—	—	—	

3. 修正の理由

当期におきまして当社グループは、全社一丸となり業績の回復に取り組んでまいりました。一昨年初に始まった経済収縮は想定以上に深刻で、先行き不安意識が広がり当期においても大きな影響を受けました。IT業界は金融業界向け投資案件を初めとして予想以上に冷え込みました。当社のコア事業であるCRMシステム構築案件も新規案件に乏しく、案件の小型化、低価格化が進みました。また受託開発サービス分野では業務量の確保が難しく、大変な苦戦を強いられました。人材紹介事業も求人数の激減から低迷しました。

このような中で当社グループは、経済環境に即して組織体制を引き締め、徹底したムダ排除をはかり、配置転換・直間是正による営業力強化の施策を講じました。同時に、一昨年立ち上げた名刺情報管理システム「アルテマブルー」は導入企業数が 250 社を超え、着実に成長しています。先行投資期間中ですが、早期に採算ベースに乗せられるよう立上げを加速しています。また新規分野として昨年 3 月に株式会社通販工房をグループ化し、通販市場での CRM - EC 事業の拡大をしつつあります。

当期の連結業績は売上高の減少に伴い、前回予想数値と比較し営業損益及び経常損益は減少する見込みです。また当期純利益は、一部の子会社で営業活動による収益性の低下が認められることから、のれん減損損失（107百万円）を特別損失として計上しました。

個別業績については、当社の一部子会社の業績悪化に伴い、純資産が減少し、同社株式の実質価額が取得価額に比べ著しく低下しました。このため保守的な観点から関係会社株式評価損（245百万円）を特別損失として計上しました。

以上